

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

現状維持が難しくなる利上げ時代 デービッド・アトキンソン(小西美術工芸社社長・元アナリスト)

- 金利は資本主義経済が機能するかどうかの根本です。効率性という尺度で資源配分する際に、効率を判断するベースとなるのが金利だからです。しかし、金利がゼロだと、企業経営者には投資判断する基準がなく、銀行も融資の是非がよく分からない。日本は経済が回る基準がないまま、規律が働かない状況が続いていたのです。
- この30年余りの経済政策は、金利をゼロにして積極財政で経済を回復させるものでした。国債を増発し、財政支出をして需要を増やした一方で、払うべき預貯金の利息をゼロにした。その分はGDP(国内総生産)が増える要因のはずでした。しかし、財政支出や預金者の我慢によるプラスはどこへいったかという、ほぼ企業の内部保留と配当です。
- 企業経営者は設備投資をし、賃金を上げるべきでした。そのためにはイノベーションを進めて付加価値を上げる努力をするべきでした。金利上昇で経営者には「現状維持」が難しくなります。原材料コストや金利、人件費が上げる中でどう利益を上げるか、真剣に考えざるを得ません。利上げは経営者に対して変革に動くプレッシャーをかけることとなります。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2024年5月11日号)

経営者のための理念・哲学

礼節は地球や自然に対しても持つべき

後藤 俊彦(高千穂神社宮司)

- 『論語』の「己を克めて礼に復る」という言葉は、他者を責める前に、自らの不徳を自省して礼節を失わぬ慎みのこころと思うが、お互いに引くことを知らぬ正義の争いは、時に災いの種となり世の中を乱す原因ともなる。また、礼節とは人間相互だけではなく、私共の生きる地球や自然に対しても持つべきものである。
- このことは私共の日常生活においても留意しておくべきであろう。私共はいま、人間として「真に守るべき価値とは何か」ということを深慮し、戦争や自然災害の世を生きなければならない時を迎えているように思う。
(参考:「致知」2024年7月号)

ワンポイント経営アドバイス

欧米と日本の成長に差がついた原因

名和高司(京都先端科学大学教授)

- 円安に株高、インフレと、これまでと正反対のいい風が吹いていることは確かです。ただ、変わっていない企業は、今の追い風がやむと厳しくなるでしょう。欧米企業は、先に未来を見据えて、そこからバックキャストする演繹型の思考が得意です。一方、日本企業は現場・現物・現実の三現主義で、足元から今の延長線上で帰納的に思考する傾向が強い。
- 演繹型の思考は、創造的破壊で次々に新陳代謝をすることをいけません。それに対して帰納型は今のものを維持させながら進化を目指すので、安定的で確かであるものの、進化に時間がかかります。この思考法の違いは、瞬間で見ると圧倒的な差を生み出します。欧米と日本の成長に差がついた原因の1つは、ここにありま

(参考:「週刊東洋経済」2024年5月18日号)

古典に学ぶ

世の中のすべての人を自分だと思ふ

- 怒りへの対処法について、空海はこう述べています。世の中のすべての人を自分だと思って見なさい。そうすれば、相手に怒りをぶつけることはない、と。
- 日常生活の中で礼儀知らずな人に出会ったり、攻撃されたりすると、つい怒りが湧いてしまうものですが、そんな時は、この言葉を思い出しましょう。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)